博 士 学 位 論 文

内容の要旨及び審査結果の要旨

令和７年度

京都外国語大学

はしがき

これは学位規程（平成 25 年文部科学省令第 5 号）第 8 条による公表を目的として、令和 8 年 3 月 20 日に本学において博士の学位を授与した者の論文内容の要旨及び論文審査の結果の要旨を収録したものである。

氏　　名	崔　子銘
学位の種類	博士（言語文化学）
学位記番号	甲第29号
学位授与の日付	令和8年3月20日
学位授与の条件	本学学位規程第3条3号該当
学位論文題目	日本語の「受ける」及び「受」を伴う表現に関する研究－中国語と日本語の授受関係を表す表現の対照研究－
論文審査委員	主査　教授　彭 飛
	副査　教授　苗 芠
	副査　教授　張 黎（大阪産業大学）

論文内容の要旨

論文提出者は、なぜ日本語の「受ける」は使用頻度が高いのか、「語源及び歴史的変遷」「共起語の相違」「類義語研究」という視点から、中国語と日本語における授受関係を表す表現の用い方の特徴に関して、とりわけ、①日本語の「受ける」の多義性及びその中国語の対応表現の考察、②日本語の「受ける」と古代中国語の“受”の多義性の考察、③「受」を伴う日本語と中国語の漢字同形語の用い方の相違の考察、④「受」を伴う日本語特有の二字漢語の用い方及びその中国語訳の特徴の考察、⑤中国語における授受を表す動詞の双方向性に関して考察したものである。序章、終章を含め、全7章から構成されている。

第1章では、日本語「受ける」が現代中国語の“受”では対応できない用法に関して、「ヲ格名詞との結びつき」に注目し、例文調査を通じて、①「～を受ける」の用い方及びその中国語訳の特徴、②対象の所有を表す「～を受ける」の用い方及びその中国語訳の特徴、③「心理的なかかわりを表す「～を受ける」の用い方及びその中国語訳の特徴という三類型に整理し、「受ける」の8用法の特徴を解析した。

第2章では、古代中国語における“受”の語義的特性に関して、①古代中国語“受”の意味や用法、②対象の所有を表す古代中国語“受”の意味や用法、③心理的なかかわりを表す古代中国語“受”の意味や用法という三類型に分類し、古代中国語の“受”の5つの特徴を解析した。

第 3 章では、中国語と日本語における「受」を伴う二文字の漢字同形語の意味的特徴、とりわけ意味的相違があるとされる「感受」「享受」「受領」「受傷」などを中心に考察した。日本語の「感受」は主に書き言葉や芸術的な文脈で使用されることが多く、感覚的・感情的な反応を表現する際に用いられる。一方、中国語の“感受”は日常会話でも広く使用され、他者の感情に同調し、物事を体験する意味で用いられる。また、主観的な感情体験を重視する点でも日本語とは異なり、より幅広い文脈で使用されている、と指摘している。また日本語の「受傷」は、主に医療記録や公的文書など、制度的・客観的な文脈で用いられる表現であり、日常会話や感情的な場面においてほとんど使われない。一方、中国語の“受伤”は、身体的な負傷のみならず、心理的・感情的な痛みを表す比喩的表現としても広く用いられる語で、書き言葉・話し言葉の両方において高い頻度で使用され、語用範囲や文体的性格に明確な違いが見られる、と指摘している。

第 4 章では、日本語特有の「受」を伴う二字漢語の用法及びその中国語訳の特徴について、第 1 節では、「社会生活における知識・サービス・資源の受容と取得」をテーマとし、「受験」「受講」「受診」「受療」「受給」「受注」「受配」などの語彙を中心に考察した。これらの語は、日本語動詞「受ける」が持つ「受け手の立場を示す」という特徴を継承し、制度的・社会的な枠組みで動作主がサービスや利益を受ける場面を明確に表現する。一方、中国語では動作の能動的側面に焦点が置かれ、“参加考试”“听课”“就诊”“领取”などのように、より具体的、かつ主体的な動詞表現が用いられ、動作主の立場性を抽象的に示す日本語表現とは大きく異なることが確認された。第 2 節では、「技術・情報の受容と伝達」をテーマに、「受信」「受話」「受電」「受像」の語にしぼり、第 3 節では、「内面的態度や感情の受容と耐性」に関して、「受容」「受忍」を中心に検討した。

第 5 章では、中国語の双方向性を持つ授受動詞及びその日本語訳の特徴について考察した。

口述試問

口述試問の際、主査・副査から様々な見地から質問されたが、論文提出者は資料に立脚し、長年の研究の蓄積を遺憾なく発揮され、ほぼ的確な回答を示され、かつ興味深い議論も展開される結果となった。「なぜ合格することを「受かる」と言うのか」」「日本語と中国語における双方向性を持つ動詞の特徴の研究にもっと力を入れるべき」「先行研究への反論をより明確にすべき」などの質問もあった。さらに「史的考証につめの甘さが見られる」「日本語の語彙史的研究から同形異義語の原因を明らかにすべき」などの意見もあったが、今後の課題の研究の進捗が期待される。

以上のような課題を抱えているにもかかわらず、本論文は研究範疇が限定されているので、この研究が持つ有効性は正当に評価されるべきである。

審査結果

本論文は日本語教育現場で生まれた研究課題で、研究の新規性、オリジナル性が認められ、結論にいたる議論の展開が十分な論拠に支えられ、かつ論理的であると評価される。

本論文で考察した日本語の「受ける」の用い方の特徴及び中国語と日本語における「受」を伴う漢字同形異義語は中国人学習者の最も間違えやすいものばかりである。漢字圏学習者向けの日本語教育において極めて重要である。個別課題の研究も、日本語と中国語の意味相違の対照研究に新たな視点を導入し、オリジナル性が強く、今後の日本語教育・中国語教育に貢献できるものである。

本論文では『日中辞書』『中日辞書』の問題点を指摘しており、辞書編纂においても大きな意義をもつ。

ただし、本論文に問題点がないわけではない。一部の考察にはやや脆弱な面も見られる。今後、史的考証などの研究が期待される。

これらの点は本論文の優れた価値を損なうものでは決してない。本研究は、日本語と中国語の授受関係を表す表現の対照研究における研究の最前線でなされたものであり、研究テーマが絞り込まれており、研究の方法論が明確である。先行研究に関する調査も十分に行われ、その知見も踏まえている。情報収集と分析能力、オリジナル性が高く、考察も詳細で、理論構築もしっかりできており、高い評価に値するものであることに変わりはない。当該分野の学術研究の進展に貢献する、独創性を備えた研究である。本審査委員会は、全員一致で、申請者に対して博士（言語文化学）の学位に値するとの結論に達した。